

2021年度活動助成 活動実績報告書

団体名	はすの会 東大阪・神戸
活動テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・遺族会のファシリテーター養成の研修を行う ・グリーフケアのための講演会の開催



はすの会の9年間の実績をもとに、遺族会開催に必要な事務的なノウハウと、会を運営するファシリテーター養成の研修を提供し、遺族会の普及とスタッフの質の向上のために、遺族会のファシリテーター養成の研修を『遺族会の現場を知ろう～遺族会の理論と実践～』というテーマで、第一回目は「遺族会とは、設立から運営について」・「遺族会で起こっていることとファシリテーターの役割」について、第二回目は「自死遺族のケアについて」・「喪失体験と身体症状」について、第三回目は「語るということ・聴くということ～ケアしあう体験から～」・「遺族のケアについて～ケア提供者に必要なもの～」についての講義をはすの会のスタッフで行った。研修後に、はすの会の定例会にスタッフとして参加し遺族会を実体験してもらった。研修の参加者からは遺族会の実際の現場を肌身を感じる事ができたと同時にファシリテーターの役割の重要性と難しさを知り、会の設立のための事務的な準備だけでなく、スタッフの育成やファシリテーター自身のより一層の研鑽の必要性を感じたとの声が多く聞かれた。定例会にスタッフとして参加しての実習は、研修で学んだことを具体的に知ることができたとの振り返りがあった。この研修がこれからの活動に活かされ、遺族会の普及につながることを願っている。

「様々な困難な人生の中で生きぬく力を何に求めるか」というテーマで高木慶子氏（上智大学グリーフケア研究所名誉所長）による講演と、はすの会のスタッフによるウエルカムミュージックの演奏を行った。コロナ禍にあり喪失したものがそれぞれの中にあり、生きぬく力も失われつつある社会状況で、個々の気持ちや心に働きかける講演であった。講演後、今このときに、このお話を聴けたことが慰めと力を与えられたと話される参加者が多かった。